

2009年1月15日

小樽市長
山田 勝 磨 様

北海道平和運動フォーラム
代 表 箱山富美子
代 表 江本 秀春
代 表 山田 剛

申 入 書

日頃から住民生活の向上に向けご奮闘されていることに対し心より敬意を表します。さて、横須賀を母港とする第7艦隊イージス艦「フィッツジェラルド」の小樽港への入港が、米側から打診されているとの報道があります。これは、小樽港を米軍の軍港にするための下準備であることは明白であり、私たちは貴市が寄港を拒否することを強く求めるものです。

「フィッツジェラルド」の任務は、北朝鮮の弾道ミサイル攻撃を想定した米本土防衛のためのミサイル防衛であり、悪戯に北朝鮮を刺激し、日本を危険にさらすものです。また、横須賀を母港としながら米本土の直接防衛を任務とする米軍の作戦行動は、まったく新しい性質のものであり、日米安保条約にすら規定されていない違法行為と言えます。

昨年2月、「ブルーリッジ」が小樽港へ入港するとの打診があった際、貴市が、入港を拒否した毅然たる姿勢を示したことについては、私たちも僭越ながら十分評価しております。しかし、結果として米国の圧力により商船が入港を延期し、「ブルーリッジ」が入港を強行したことに激しい憤りを感じています。

今回の寄港が、小樽港の軍港化への下準備を行うことを目論むものであることは明白です。こうした動きは、政府が自衛隊と米軍が一体となって「戦争をする国」をめざし、日本全土をいつでも米軍の基地として利用できるよう調査し、準備するという狙いをもつものです。度重なる米軍艦船の寄港は、小樽港を米軍が自由に出入りできる軍港とする意図を持つものであり、核兵器の搭載の有無とかかわりなく市民の平和と安全を脅かすものです。私たちは、このような狙いをもつ米軍艦船の寄港に憤慨するとともに、貴市が寄港を拒否することを強く求めるものです。

そこで、次の点について申し入れを行いますので、ご回答ください。

記

- 1 今回の入港を許可しないよう求めます。
- 2 私たちは、「日米地位協定5条」には、通告だけで自由に入港できるとの定めはなく、入港を許可するか否かの判断はあくまでも港湾管理権を持つ小樽市長であると理解していますが、貴市の見解を求めます。

以 上